
ますた～ワカメ様！！！！

かるびーえーる

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ますた〜ワカメ様!!!

【Nコード】

N1507D

【作者名】

かるびーえーる

【あらすじ】

ワカメ・・・もとい、慎二君のお話です。

(前書き)

ほとんど会話です。

「なあ、ライダー？僕ってハンサムだよなあ？」

「はあ」

「なあ、ライダー？僕って男前だよなあ？」

「へえ」

「なあ、ライダー？僕ってイケテナイ？」

「はいはい」

「・・・っておい！！！！ライダー！！！！ちゃんと僕の話聞いているのか！？ええ！？おい！！！！」

「はあ・・・いちいちうるさいワカメですね・・・まったく」

「ワ・・・ワカツ・・・？お・・・お前！！！！誰にそんな口を聞いているんだ！？ええ！？ライダー！？僕はお前のマスターなんだぞ！？わかつてるのか！？お・・・おい！！！！それに・・・！！いい加減その『ワカメ』ってのはヤメロ！！！！僕のどこがワカメなんだ！！！！」

「ええ・・・なんか全体的にわかめええええええきもおおおおおおって感じですかね？」

「い・・・意味が分からないんですけど（汗）・・・と・・・とりあえずだ！！そのワカメってのはヤメロ！！これはマスターの命令だ！！いいな！？」

「はあ、わかりました。では、マスターのためにもっとナウいあだ名考えます」

「へ・・・へえ？い・・・いいじゃない？かつこいいのにしてくれよ？例えば・・・『スーパー慎二』とか『スペシャル慎二』とか『いける慎二』とか『DX慎二』とかはどうかな？」

「・・・・・・・・・・・・・・・・だまれ、クサ郎」

「ん？ライダー？今なんか言ったか？」

「いいえ、それより思いつきましたよ。マスターのあだ名」

「へ・・・へえ？言ってみなよ？」

「はい、『スーパーワカメ』、『スペシャルワカメ』、『いけるワカメ』、『DXワカメ』なんてのはどうでしょう？この中から選んでください」

「だああああ~~~~！！！！！！さっきの僕の言ったあだ名、置換しているだけじゃないか！！！！そ・・・

・・・それに！！！！いい加減そのワカメから離れる！！！！もっと違うのにしろ！！！！今度はワカメってのは入れるなよ！？いいなっ！？わ・・・わかったな！？」

「はあ、もうめんどくさいので『もじゃもじゃ』でいいですかね？」

「もつとやだっ！……！！」

「あら？ライダー？どうしたのこんなところで？」

「おっ……桜か。あははは……いいところできたな」

「えっ……？もじゃもじゃ兄さん！？」

「だ……だれがもじゃもじゃだ！……おい！……桜！……兄に向かつてその口はなんだ？え？」

「や……やだ！……兄さん！……もじゃもじゃしないで！……」

「しねえよ！……というか、なんだよ！……その行動！……それに……！桜！……また、衛宮の家に行ってたのか？あれほどアイツの家には行くなといっていただろうが！……」

「……」

「おい！……聞いているのか？桜！……」

ガッ！……！

「い……いやあ！……やめて！……もじゃもじゃ兄さん！……もじゃもじゃ菌が移ります！……」

「き・・・貴様っ！！！！今にも泣き出しそうな顔で陰湿な悪口を言うんじゃない！！！！この！！！！」

「マスターもじやもじや、やめてください。桜は悪くありません。あなたが全て悪いんです」

「そこにマスターをつけるな！！！！しかも・・・フツーそこは『私が悪いんです』って言うところじゃないの！！！！なんかすごく腹が立つんだけど！！！！僕！！！！」

「おい、慎二。そこまでしておくがよい。あまり、そう熱くなるな」

「うるせー！！！！！！！！！！きもじい！！！！！！！！しかも、なんだ！！！！そのかつこ！！！！平然とフル。んを出しながら僕に説教たれるな！！！！・・・ってああああ！！！！！！！！！！いろんなモノもたれてんじやあねえか！！！！クソじい！！！！きたねえええええ！！！！！！！！！！」

「ああ・・・すっきりした」

「幸せそうなツラしてんじやねえよ！！！！クソ爺！！！！」

そして、学校！！！！！！

「……でさあ？衛宮。僕ってハンサムじゃない？」

「ああ、そうだな」

「なあ？衛宮。ところで僕ってかっこよくない？」

「ああ、かっこいいよお前」

「なあ？衛宮。ところで僕って美男子じゃない？」

「ああ、お前にはそのさらさらヘアが似合ってるよ」

「お前、微妙に人の話聞いていないな！！！」

「えっ……？さっきから聞いてるぞ？慎二のケツの穴は小さいな
っていう話だろ？」

「んな話、僕一言もしてないんですけどお！？」

「えっ……そうなのか？す……すまん……ワカメ」

「お前、全然謝る気ないだろ！？」

そして、帰宅――――

「おい、ライダー、桜はどうした？」

「シロウの家に行きましたが」

「くそっ……またかよ……あ……イライラするな……おいっ!!!!ライダー!!!」

「肩、揉め!!--!」

「はあ、ひがんでもしょうがないですよ?もじゃもじゃ。よけいもじゃもじゃしますよ?」

「……お願いですからもうもじゃもじゃ言つの止めてください……(汗)」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1507d/>

ますた～ワカメ様！！

2011年1月26日15時55分発行